

課名	危機管理課
担当	難波、池尻、浅間
内線	2180、2181、2182
直通	086-226-7946

南海トラフ巨大地震・断層型地震の被害想定について

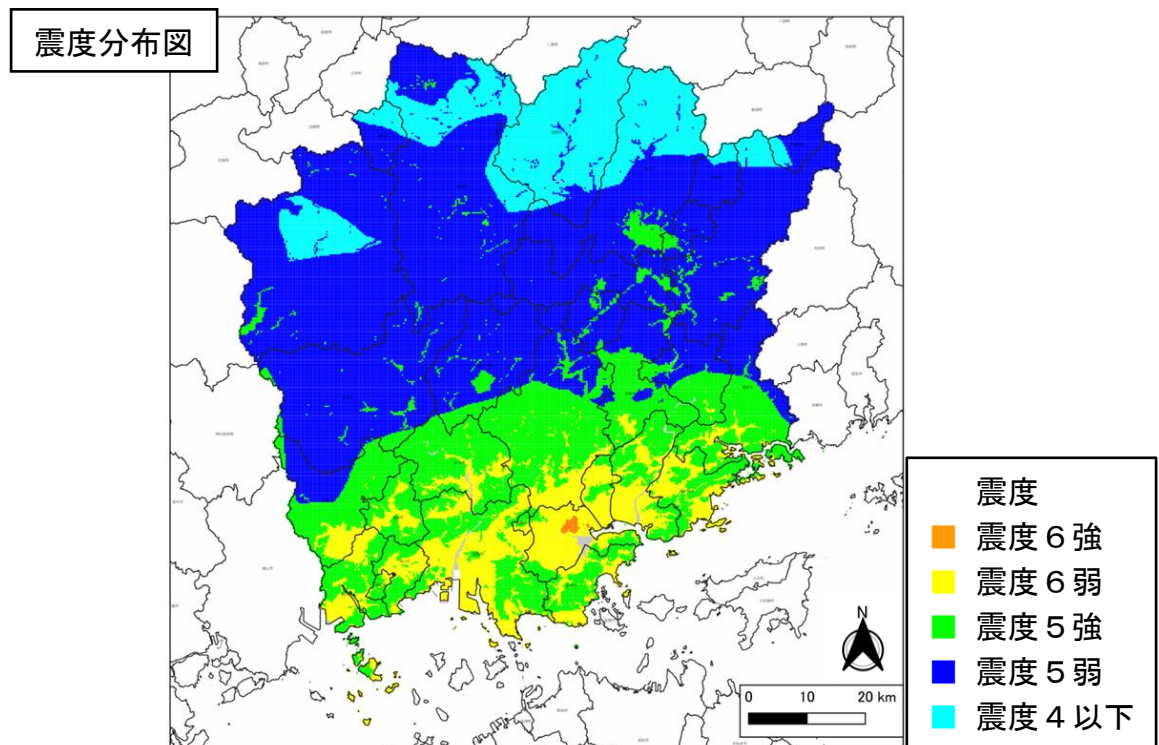
県では、国が令和7年3月に公表した南海トラフ巨大地震の被害想定を受け、国が用いたデータに、県独自に収集した地質データ等を追加し、より詳細な被害想定を行った。

なお、今回、想定外をなくすことを目的に、一部の被害想定項目の推計手法は、より被害が大きくなる国のものを採用した。そのため、被害が増えている項目がある。

1 南海トラフ巨大地震

(1) 震度分布

県の前回想定（H25）以降に収集した地質データを追加し、震度の推計精度を高めた。なお、震度6強の面積は前回想定の1/3以下に減少するなど、一部の市町村で最大震度が変化した。



(参考) 市町村別最大震度＜前回（H25）の県独自の被害想定との比較＞

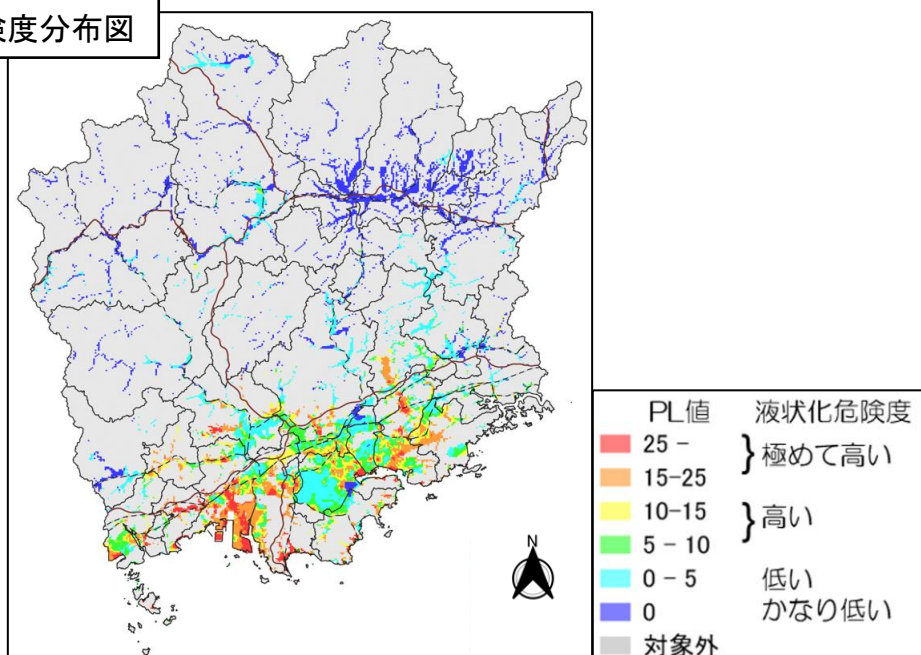
市町村	H25	R8	市町村	H25	R8	市町村	H25	R8
岡山市北区	6弱	6弱	高梁市	5強	5強	里庄町	6弱	6弱
岡山市中区	6強	<u>6弱</u>	新見市	5強	5強	矢掛町	6弱	6弱
岡山市東区	6強	<u>6弱</u>	備前市	6弱	6弱	新庄村	5弱	<u>5強</u>
岡山市南区	6強	6強	瀬戸内市	6弱	6弱	鏡野町	5弱	5弱
倉敷市	6強	6強	赤磐市	6弱	6弱	勝央町	5強	5強
津山市	5強	5強	真庭市	5強	5強	奈義町	5弱	5弱
玉野市	6弱	6弱	美作市	5強	5強	西粟倉村	5弱	5弱
笠岡市	6強	<u>6弱</u>	浅口市	6弱	6弱	久米南町	5強	5強
井原市	6弱	6弱	和気町	6弱	6弱	美咲町	5強	5強
総社市	6弱	6弱	早島町	6弱	6弱	吉備中央町	5強	5強

(注) 下線部は前回想定から最大震度が変わっている市町村

(2) 液状化危険度分布

震度分布と同様に、地質データの追加により液状化危険度分布の推計精度が向上した。前回想定に比べ、「液状化危険度が極めて高い」エリアが狭くなるなど、一部地域を除き、県下の多くの地点で液状化危険度が低下した。

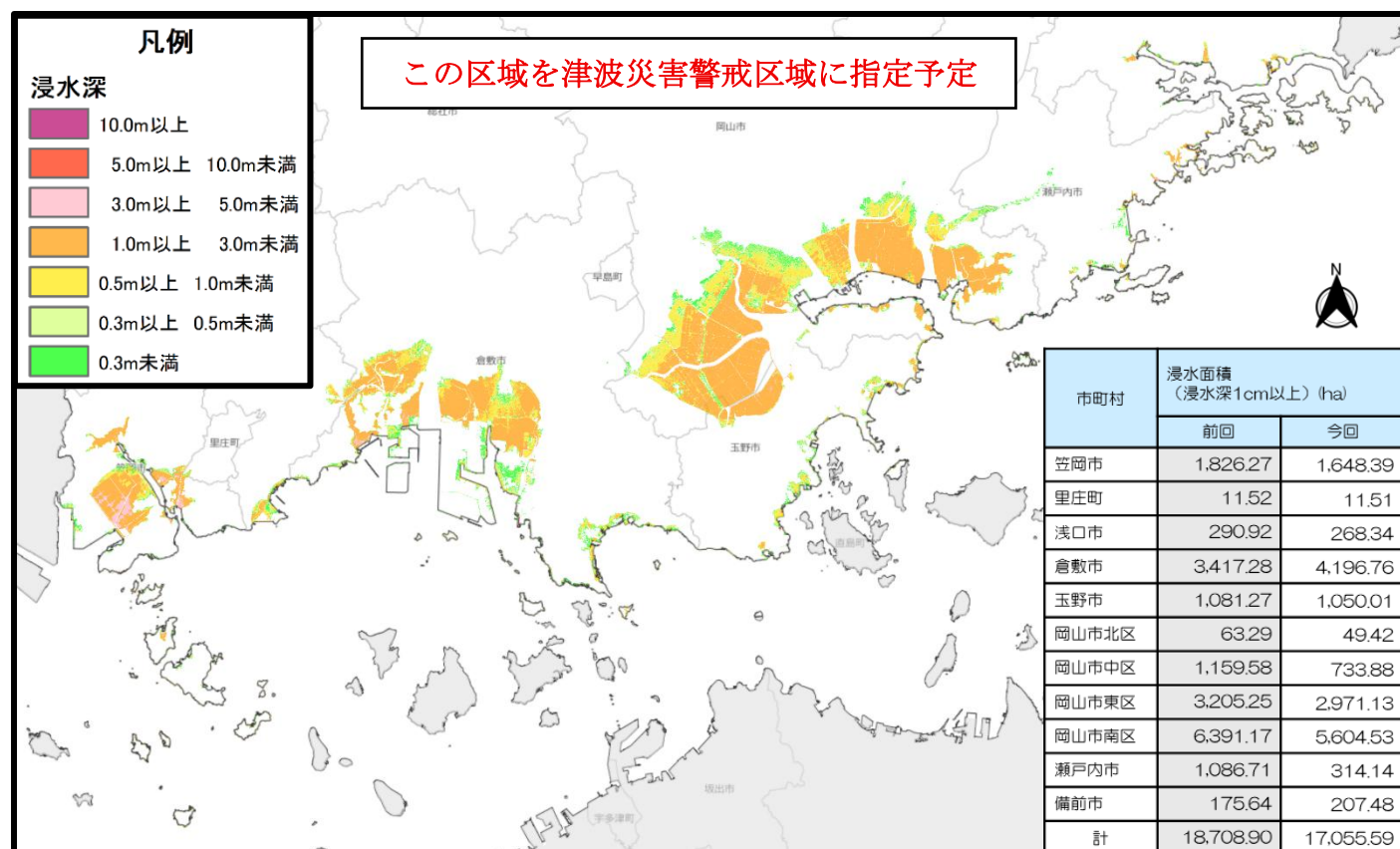
液状化危険度分布図



(3) 津波浸水想定

堤防等の耐震性を評価したことなどにより、浸水区域の分布に増減がある。前回想定に比べ、県全体の浸水面積（浸水深1cm以上）は約9%減少した。

津波浸水想定（パターン1：地震動により堤防等が機能しなくなる場合）



(4) 被害想定結果

ア 総括（項目ごとの最大値）

被害想定は、堤防破壊のタイミングや、地震が発生する季節・時間帯を変えた複数の条件（※1）で推計。次表は、全条件の推計値から項目毎の最大値を抽出したもの。

被害想定項目		単位	前回想定 H25(2013)	今回想定 R8(2026)
建物被害(全壊・焼失棟数)		棟	18,665	21,742 ※2 [19,732]
人的被害	死者数	人	3,111	3,778 ※2 [2,046]
	災害関連死者数	人	定量的な想定なし	624~1,247
ライフ ライン	上水道（断水人口）	人	933,237	705,434
	下水道（支障人口）	人	1,017,207	1,115,474
	電力（停電軒数）	軒	960,195	1,028,960
	ガス（供給停止戸数）	戸	30,640	14,335
生活支障	避難者数	人	342,177	347,120

※1 堤防破壊時点：2パターン（地震直後、津波の越流時点）

季節・時間帯：4シーン（冬・深夜）、（夏・昼）、（冬・夕）、（正月・夕）

※2 [] 内は、前回想定と同じ手法（≠国採用）で推計した数値。以下同じ

イ 建物被害の要因別内訳【冬・夕】【津波パターン1】

単位：棟

		前回想定 H25(2013)	今回想定 R8(2026)	増減	主な増減理由
全壊・焼失棟数		18,665	21,742 [19,732]	3,077 [1,067]	
要因別 の内訳	揺れ	4,690	3,240	▲1,450	耐震性の向上
	液状化	1,036	2,644 [634]	1,608 [▲402]	国の推計手法 に変更 ※3
	急傾斜地崩壊	221	172	▲49	
	津波	8,817	9,470	653	浸水区域内の 建物の増
	地震火災	3,901	6,216	2,315	風向等の条件 変更 ※4

※3 国が採用している地盤沈下量を基にした推計手法へ変更。前回は国と異なる PL 値（液状化指数）を基に推計

※4 国が条件を変更（＝風向をより燃え広がりやすいものへ）したことなどによる

ウ 人的被害の要因別内訳【冬・深夜】【津波パターン1】

単位：人

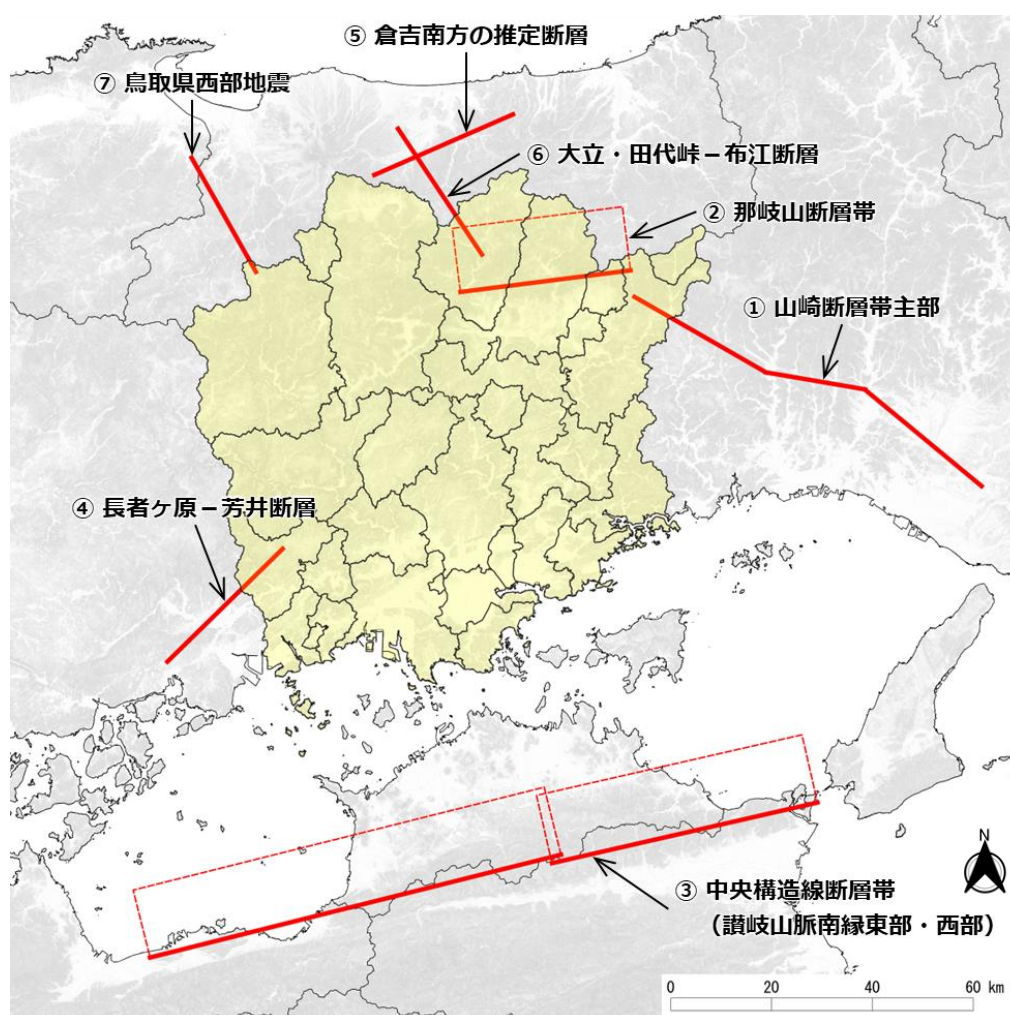
		前回想定 H25 (2013)	今回想定 R8 (2026)	増減	主な増減理由
死者数		3, 111	3, 778 [2, 046]	667 [▲1, 065]	
要因別の 内訳	建物倒壊	305	177	▲128	揺れによる 全壊棟数の減
	急傾斜地崩壊	20	16	▲4	
	津波	2, 786	3, 585 [1, 853]	799 [▲933]	国の推計手法に 変更 ※5
	地震火災	0	0	0	
	屋外落下物等	0	0	0	

※5 安全な避難場所に避難できなかった者の死亡率の考え方（浸水深と死亡率の関数）を、前回想定より厳しいもの（＝国採用）へ変更

2 断層型地震

（１） 想定する断層型地震

本県に大きな被害をもたらす可能性がある地震として、前回と同じ7つの断層型地震を想定。



(2) 各断層の震度分布と被害想定結果の概要（最大値）

建物被害が最大となるのは「中央構造線断層帯」を震源とする地震であり、建物の全壊・焼失棟数は、1,500を超える。

また、人的被害については、「山崎断層帯主部」を震源とする地震が最も死者数が多くなる。

地質データ等の変更により、前回との比較で被害に一定の変動はあるが、特に「中央構造線断層帯」を震源とする地震の被害が大きく増加している。震源域の見直し等により、震度6弱の範囲が広がったことが主たる要因。

断層名	マグニ チュード	発生確率 (※6)	県内最大 震度	全壊・焼失 棟数 (棟)	死者数 (人)	避難者数 (人)
①山崎断層帯主部	8.0	0.1%~1%	6強	849	23	10,367
②那岐山断層帯	7.3	0.06%~0.1%	6強	96	5	1,716
③中央構造線断層帯	8.3	1%以下	6弱	1,560	19	20,478
④長者ヶ原ー芳井断層	7.3	不明	6強	872	6	11,666
⑤倉吉南方の推定断層	7.3	推計なし	6弱	3	0	79
⑥大立・田代峠ー 布江断層	7.3	推計なし	6強	33	2	697
⑦鳥取県西部地震	7.3	推計なし	6強	62	3	971

※6 国（地震本部）による今後30年以内の地震発生確率

南海トラフ地震の場合は、「20~50%」または「60~90%程度以上」とされている

(参考) 前回想定の結果

断層名	マグニ チュード	県内最大 震度	全壊・焼失 棟数 (棟)	死者数 (人)	避難者数 (人)
①山崎断層帯主部	8.0	6強	604	33	5,680
②那岐山断層帯	7.3	6強	209	12	2,078
③中央構造線断層帯	8.0	6弱	291	5	11,018
④長者ヶ原ー芳井断層	7.4	6強	856	40	21,672
⑤倉吉南方の推定断層	7.2	6強	113	6	1,442
⑥大立・田代峠ー 布江断層	7.2	6強	340	20	3,868
⑦鳥取県西部地震	7.3	6強	17	0	150

3 その他

県ホームページ (<https://www.pref.okayama.jp/page/detail-17871.html>) に市町村別の内訳等を掲載しています。